

# 安定した給与体系と長期職業訓練で 若手人材の将来設計をサポート

イメージUP 入職促進 定着促進 人材育成

## POINT

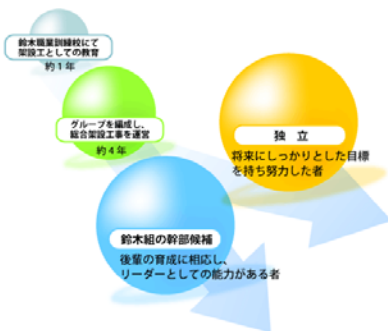
- ▶(株)鈴木組は社内に訓練校を設置、将来の幹部候補を目指して、施工計画や施工管理もできる架設技能工の育成に努めている。
- ▶(株)鈴木組の新入社員全員が全寮制のもとに、1年間で1,600時間の訓練を行う。研修修了前の技能照査を経て、技能士補の資格を取得し現場に配属される。
- ▶とび工としての将来設計を描ける賃金体系を整備して、定着率の向上に努めている。



(株)鈴木組の鈴木職業訓練学校がある施設は、訓練生の寮も兼ねている



圧倒的な時間が割かれ重視される仮設工事の実習



訓練校における架設技能工としての教育から始まる(株)鈴木組のキャリアルート

## 背景と動機

建設業の社会的地位向上のためには、「人を育成しなければならない」という(株)鈴木組初代会長の人材育成に対する強い思いが結実して設立された。約4年間の準備を経て平成6年4月に東京都より職業訓練校として認定、今春22年目を迎えた。

## 概要と成果

(株)鈴木組の新入社員は入社日に鈴木職業訓練校に配属される。全寮制のもとで、給料をもらいながら1年間で計1,600時間の座学と実技を受講する。鉄骨組立等の大掛かりでより実践的な訓練は富士教育訓練センターで実施。開校以来、約140名の卒業生を輩出している。

### 賃金体系を整備

入職促進 定着促進

地域や出身学科を問わず、幅広く社員として採用。固定月給制で、とび工としての将来設計を描ける賃金体系を整備。完全週休2日制、各種手当、社保完備等、福利厚生も充実。

### 成果

- ・35歳を超える頃から、年収ベースで日給月給のとび工を逆転する。収入が安定したことで、家を購入する社員が生まれている。
- ・社会保険加入を導入し始めた頃には反発もあったが、年金をもらえるようになった者が現れ、感謝される状況が生まれている。

### 全寮制のもと1年間の訓練

人材育成

全寮制のもとに1年間の訓練を実施。座学では、建築概論・製図・安全衛生等を学ぶ。実技は仮設工事実習をメインに、鉄骨工事、測量等の訓練を受ける。

### 成果

- ・平成26年度の研修修了時に行う技能照査では、7名全員が合格、技能士補を取得。
- ・架設技能工に求められるコミュニケーションの向上には、全寮制の集団生活での体験が役立っている。

【苦勞・工夫した点】青森県、福島県、東京都などの高校に直接足を運んで求人活動を行ってきた苦勞が実り、毎年希望どおりの採用を達成。定期的に若手人材が入職してくることによって、職場の活性化が図られている。

## 職業訓練の実施体制

鈴木職業訓練校では、座学(558時間)と実技(1,042時間)を合わせて1年間で計1,600時間の研修を実施。実技の一部は富士教育訓練センターを活用している。

【場所】座学と実技は東京都足立区にある鈴木職業訓練学校で実施。大掛かりな実技は静岡県富士宮市にある富士教育訓練センターを活用。

【指導員】指導員5名体制で行う。指導員のうち3名は1級建築士の有資格者。1名は同校の卒業生で先輩社員である。

【教材】テキストは市販のものから指導員の推薦と指定で決められる。その他、指導員が作成するレジュメ等も随時利用される。

【スケジュール】訓練期間は4月から翌年1月末まで。富士教育訓練センターでは2週間の訓練を実施。日課は、8時15分から17時まで。週間のスケジュールは、月曜から木曜日までが実技、金曜日に座学を行う。実技のトータルは1,042時間、座学は558時間である。研修最終週には卒業試験を実施。合格すれば、技能士補が取れ、技能士試験とび2級の筆記免除になる。

【カリキュラム】座学は、建築概論・製図・安全衛生等を中心とし、実技は仮設工事実習をメインに、鉄骨工事、測量等の訓練が行われる。

## PROFILE

### 株式会社鈴木組

所在地/東京都文京区千駄木 3-43-3  
ATK 千駄木ビル 4F  
TEL: 03-3822-1785

資本金/1000万円  
従業員数/95人

URL/ <http://www.suzujts.co.jp/>



## 《参考1》鈴木職業訓練学校のカリキュラム



鈴木職業訓練学校での受講風景。朝8時15分から17時までみっちり学ぶ



静岡県富士宮市にある富士教育訓練センターで訓練を実施した平成26年度生

| 科目       | 学科        | 分野     | 時間数 (h) |    |
|----------|-----------|--------|---------|----|
| 学科       | 普通学科      | 社会     | 24      |    |
|          |           | 小計     | 24      |    |
|          | 系基礎学科     | 建築概論   | 12      |    |
|          |           | 建築生産概論 | 24      |    |
|          |           | 建築計画概論 | 40      |    |
|          |           | 建築構造概論 | 68      |    |
|          |           | 建築設備   | 20      |    |
|          |           | 測量     | 16      |    |
|          |           | 建築製図   | 40      |    |
|          |           | 構造力学概論 | 48      |    |
|          |           | 関係法令   | 20      |    |
|          |           | 安全衛生   | 44      |    |
|          |           | 小計     | 332     |    |
|          |           | 専攻学科   | とび施工法   | 60 |
|          |           |        | 材料及び器具  | 24 |
|          | 仮設工事施工法   |        | 40      |    |
|          | 土工事施工法    |        | 32      |    |
|          | 仕様及び積算    |        | 32      |    |
|          | 小計        |        | 188     |    |
|          | 学科時間数合計   |        | 544     |    |
| 実技       | 系基礎実技     | 測量基本実技 | 52      |    |
|          |           | 機械基本実技 | 88      |    |
|          |           | 安全衛生作業 | 40      |    |
|          |           | 小計     | 180     |    |
|          | 専攻実技      | 仮設工事実習 | 428     |    |
|          |           | 鉄骨工事実習 | 328     |    |
|          |           | 土工事実習  | 40      |    |
|          |           | 玉掛揚重実習 | 40      |    |
|          |           | 器具使用法  | 40      |    |
|          |           | 小計     | 876     |    |
|          | 集合訓練時間数合計 | 1,056  |         |    |
| 総訓練時間数総計 | 1,600     |        |         |    |

## 《参考2》事業で活用できる助成金(平成27年度予定)

### 計上していない費用も大きい

訓練校の年間費用は、賃金・経費合わせて約4,000万円。一人当たりでは500~600万円と試算している。そのうち1/3を補助金で賄う。

賃金助成は研修生の賃金分だけで、学校の運営などに関わっている(株)鈴木組の社員の人件費は対象外である。また助成には限度額が設定され、計上できない費用も発生する。訓練校の管理などに費やされる社員の労力は明確に計上できない部分も多く、人材を育てるために多大な費用と時間がかけられている。

### ▶鈴木職業訓練校が受給する助成金

- 認定職業訓練助成事業費補助金(運営費) / 東京都

受給額 1,238,000円 + 68,000円 × 訓練生数

- 建設労働者確保育成助成金(経費助成) / 厚生労働省

受給額 認定訓練助成事業費補助金の交付を受けて都道府県が行う助成により助成対象経費とされた額の6分の1に相当する額

### ▶(株)鈴木組が申請することにより受給することができる助成金

- キャリア形成促進助成金(賃金助成) / 厚生労働省

受給額 政策課題対応型訓練(OFF-JT)賃金助成  
一人当たり 800円 × 訓練時間

- 建設労働者確保育成助成金(賃金助成) / 厚生労働省

受給額 一人当たり 5,000円 × 訓練日数

## 現状の課題(現在、取組を実施する上で苦労している課題)

指導員の多くが70歳を超え、世代交代の時期に差し掛かっている事や18歳位の訓練校生とのゼネレーションギャップもある。そのため、訓練校の卒業生の主だった者に指導員の資格を取得させ3~5年交代制で指導員を務めてもらう事としたが、本人らの現場で働く思いが強く、人選に苦労している。また、助成金の規定範囲内で指導員を引き受けてくれる外部人材もなかなかいない事もあり、定年後に指導員として継続雇用できる制度など早急に対策を講じる必要がある。